

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(国語)
／野口 哲也

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

教科専門分野という観点から国文学の授業を展開する。専門的な知識の習得に加え、文学作品の精読を通じて確かな読解力と幅広い視野を身に付けることを目的とし、質の高い教育実践の背景作りに貢献する。授業にあたっては受講者とのコミュニケーションを重視し、受講者が教室で作品を扱う際の創意工夫につながるような主体的な取り組みを促す。

2. 点検・評価

授業の実施については、概ね計画通りに行うことができた。レポートや論文の作成にあたって、先行研究の参照方法や引用方法に関するルールの遵守に関しては特に厳しく指導した。演習科目では受講者が発言しやすい環境を整えるよう心がけた。講義科目でも、フィードバックペーパーを毎回配布し、次時の冒頭にその一部を紹介したりコメントを返す時間を設けた。いずれも受講者の理解度をその都度確認しつつ、学生自身の主体的な取り組みを促すことができたと思う。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

現在の国文学(近現代文学)関連の授業カリキュラム(履修年次)は、専門的な見地からも教員養成という観点からもアンバランスを生じている。これを3ヶ年計画で効率的な体系に整備し直すと同時に、個々の授業内容についても精選と充実に努める。

また、授業外においても十分な学習支援を行い、学生の疑問や意見を講義内容に反映させる。

2. 点検・評価

中間報告に示したとおり、国文学系の授業カリキュラムを見直し、移行期間に生じる困難な条件については、授業形態や時間外指導などで工夫しながら対応した。

演習担当者への事前指導については、オフィスアワー・授業時間外においても十分な学習支援ができた。また、講義科目も学生の意見をフィードバックさせながら進めることができた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

1. 平成22年度に学位取得した泉鏡花研究については継続してさらに深化させる。
2. 現在獲得している科学研究費の若手研究(B)を着実に遂行し、明治期翻訳文学についての成果をあげる。
3. 平成22年度で最終年度を迎えた科学研究費の共同研究(基盤C)についても成果をまとめ、次の研究につなげる。

2. 点検・評価

1. 泉鏡花に関する学術論文を執筆し、学会論文集(審査有)に発表した(2011年9月)。
2. 科研費(若手B)に採用されている明治期翻訳文学の調査は前年度より継続して着実に遂行している。
3. 科研費(基盤C)に採用された共同研究の一部を論文として発表した(2011年8月刊行)。
4. 上記のほか、現代女性作家に関する解説書の一部を執筆し発表した(2011年6月刊行)。また、太宰治に関する研究論文を執筆した(論文集・印刷中、2012年6月刊行予定)。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

1. 学部教務委員として職務を遂行する。特に、Ⅱ-1に記したように、自ら担当している授業に関わるカリキュラムを整備する。
2. コース・教育部所定の各種会議に参加し、大学運営に協力する。

2. 点検・評価

1. 学校教育学部教務委員としての職務を遂行し、コースの意見集約を行い、意思統一をはかった。
2. 言語系コース(国語)における会議の議事録を作成するほか、鳴門教育大学国語教育学会など各種行事の運営に関わった。また、3年生のクラス担任として合宿研修の引率等を行った。他に、大学院説明会に参加して広報活動を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

1. 附属学校の教員と連携し、様々な機会を利用して積極的に意見交換を行う。
2. 地域の教育・文化活動に積極的に参加し、社会との連携を図る。
3. 留学生の指導・支援など、コース全体の国際交流活動に協力する。

2. 点検・評価

1. 主免実習に当たる学部3年生のクラス担任として、実習校訪問はもちろん、これまで以上に実習校との連絡を密にし、実習授業が円滑に実施されるよう努力した。
2. 教育支援講師・アドバイザー派遣事業に登録した(近代日本の幻想文学)。また、大学院長期履修生の教育実習に協力を依頼している公立小・中学校を訪問し、校長・教諭との意見交換を行った。
3. 10月より学部交換留学生(タイ・コンケン大学)の指導教員として学習指導・生活支援に当たった。また、第8回日中青少年交流事業に関して、本学を訪問する中国人学生による授業参看を受け入れ、日本文学の講義を行った(11月4日)。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

1. e-Knowledgeコンソーシアム四国・研究プロジェクト専門委員会委員(人文分科会)
2. 科研費(若手B)(代表者)採択中
3. 平成23年度鳴門教育大学学術研究会世話役

在職期間中、経験不足で微力な自分として出来るだけの貢献をさせていただきました。